

関東森林管理局入札監視委員会審議概要（平成 20 年度第 3 回）

開催日及び場所		平成 20 年 12 月 17 日(水)関東森林管理局 2 階第 3 小会議室	
委員		新井敏夫(委員長)、淵上勇次郎(高崎商科大学学長)、石井彰慈(高崎商科大学教授)	
審議対象期間		平成 20 年 7 月 1 日～9 月 30 日	
工 事	抽出案件	31 件	(備考)抽出対象件数 工 事 : 79 件 測量・コンサル : 67 件 物品・役務調達 : 210 件 計 356 件
	一般競争	30 件	
	公募型及び工事 希望型指名競争		
	通常指名競争		
	随意契約	1 件	
	測量・建設コンサルタント等 業務(抽出案件)	28 件	
物品・役務調達(抽出案件)	34 件		
委員会からの 意見・それ に対する回答等	委員からの意見質問		局回答
	<p>前委員会での未回答の報告</p> <p>(新井委員長)</p> <p>林野庁では、どのように抽出基準を決めたのか。また、審議時間などのシミュレーションはしたのか。</p>		<p>(企画調整室長)</p> <p>抽出基準については、「事業別・入札方式別・規模別・高落札率上位 5 位」という基準により、抽出を行っていることはご承知のとおりです。この基準の設定については、林野庁に設置されている「林野庁直轄事業契約監視等委員会」において、外部委員から「任意によるものでなく、事業別・入札方式別などの基準を設定すべき」との指摘があり、林野庁において具体的基準を設定したものと聞いております。</p>

	<p>(新井委員長)</p> <p>入札制度の変更に対する業者の意見を把握しているのか。</p> <p>参考資料の審議</p> <p>(石井委員)</p> <p>今回作成頂いた「工事等時系列グラフ」と「工事等時系列分析表」は、治山工事と林道工事に分かれているわけですが、治山工事と林道工事の受注業者は、重複するのですか、それとも業種毎に別々になっているのですか。もし、業者が重複しているのであれば、グラフや表を工事一本でまとめた方が良いでしょうと思いますし、重複していないのであれば、特に表については、治山は治山、林道は林道でまとめて表示するようにした方が比較しやすいと思います。</p>	<p>(企画調整室長)</p> <p>先般林野庁において実施しております「林野庁直轄事業の発注業務に係るアンケート調査」についてご説明させていただきます。</p> <p>(森林整備課長)</p> <p>林道と治山の受注業者については、相当数の業者が重複していると思います。入札参加状況事業者登録を見ても、同一業者が治山工事、林道工事に参加登録をしているのが実態であります。</p> <p>ただ、個々の事業を見てみると、治山の地すべり事業などの特殊な技術を要する工事については、林道は施工できても、技術的に対応できず参入していない業者がいると考えられます。</p> <p>また、治山工事と林道工事では、発注時の公告等において、工事実績として治山工事と林道工事を区分けしております。</p> <p>確かに両工事を重複して受注する業者も数多くおりますが、比較グラフとしては、治山工事と林道工事を分けた方が良いでしょうと考えております。</p>
--	---	--

	<p>(新井委員長) 抽出案件表の内容ですが、落札率の高い工事等を抽出基準に基づき抽出しているという事は、落札率の高い工事に談合に係わる案件があると判断しているのですか。</p> <p>(新井委員長) 林野庁において業者アンケートをとりますが、今後もこの様なアンケートを続けていくのですか。</p> <p>(淵上委員) 林野庁で実施されたアンケート調査は、実にいいことだと感じております。 このアンケート項目4に「さらに、取り組んだ方が良くと思われることなど、御意見がありましたら忌憚なくご記入下さい。」と書いてありますが、どんな意見が業者からでていましたか。</p>	<p>への変更がなされたと考えております。</p> <p>(企画調整室長) 基本的には、談合の可能性がある工事は、落札率が高い傾向にあるとの観点だと思えます。 ただ、落札率のみで判断することはできず、複合的に見ていく必要があり、件数は少ないですが、総合評価方式により、応札金額の高い者が落札するケースも発生していますので、一概には言えないものと思えます。</p> <p>(企画調整室長) 林野庁において今後5年間、毎年アンケートを実施する予定です。</p> <p>(企画調整室長) 具体的な意見までは、申し訳ありませんが、情報されておられませんので。</p>
--	--	---

	<p>治山工事、林道工事、造林請負及び生産請負の抽出案件についての審議</p> <p>(淵上委員)</p> <p>総合評価で入札価格によらず逆転した工事 (A020) がありました。私は、良質なものを適正な価格でと一般的に思っております。</p> <p>前回、総合評価の方法について説明いただいた時、評価項目の説明がありましたが、この工事については、どの評価項目により逆転がおきたのですか。</p> <p>(淵上委員)</p> <p>説明して頂いた2社についてですが、業者としての規模の違いはあるのですか。</p> <p>(淵上委員)</p> <p>説明までは結構ですが、規模の大きい会社ほど技術評価点が高くなるのではないですか。</p>	<p>(経理課長)</p> <p>評価項目の採点表は、総合点で見ますと、落札者の技術評価点が〇〇点であり、入札価格の一番低い者は、技術評価点が〇〇点でありました。</p> <p>技術評価点を入札価格で除した評価点で落札者を決めるわけですが、この工事については、落札者の評価点が〇〇点で入札金額1番の入札者の評価点が〇〇点となり、落札者が決定しております。</p> <p>(経理課長)</p> <p>当局における業者の格付けは、両社ともCランクとなっておりますが、各業者の規模の資料が今ありませんので、次回の委員会で説明させていただきます。</p> <p>(経理課長)</p> <p>規模の大きい会社の方が事務担当者、技術者なども多くいることから、技術評価点が高くなる傾向にあるようですが、明らかな相関はないと認識しています。</p>
--	---	--

	<p>(新井委員長)</p> <p>技術評価の採点方法について、業者は理解しているのですか。また、業者は、評価点を知ることができるのですか。</p> <p>(新井委員長)</p> <p>工事の入札は全て総合評価入札方式に変わったのですか。</p> <p>(石井委員)</p> <p>説明して頂いた磐城森林管理署ですが、入札件数も多く落札率が比較的高く、実質競争者1の件数も多くなっています。</p> <p>総合評価の入札において談合が行われるとすると、1者だけ有効落札をし、他者は、予定価格を超過して入れるということも考えられますので、このような実質競争者1の工事については注意が必要に思えます。</p> <p>また、一般競争入札の参加者は、この工事をとるために入札にくるわけですから実質競争者1の件数が多いのは不自然に思えます。</p> <p>逆に会津森林管理署、白河支署、中越森林管理署の様に落札率が低い実質競争者1の比率は高い地域もあるのですが、この様な署については、どの様に分析されていますか。</p>	<p>(治山課長)</p> <p>業者は、技術評価点と入札金額により落札者が決定することは理解しております。</p> <p>また、自社の評価点について照会があった場合は、自社の技術評価点に限り、教えることができることになっております。</p> <p>(企画調整室長)</p> <p>総合評価入札方式については、規模別に分かれていまして、予定価格が1千万円以上の工事等につきましては全て総合評価入札方式となっております。</p> <p>(企画調整室長)</p> <p>まず、磐城森林管理署の実質競争者1の案件が多いとのご指摘の件ですが、工事件数が第1四半期は6件、第2四半期は9件の中で実質競争者1の件数が第1四半期1件、第2四半期6件となっております。このように見れば、常に実質競争者1という状態が続いているわけではないと思いますが、先生のご指摘を踏まえ、このような地域についてはデータの蓄積をしながら、今後とも注視して参りたいと考えております。また、会津署等々については、現段階では判断は難しいと思っております。</p>
--	---	---

	<p>(淵上委員)</p> <p>治山工事の場合、入札執行から工事着手まで何日ぐらいという基準になっているのですか。</p> <p>(淵上委員)</p> <p>今年のこの第二四半期においては、燃料、部材の高騰があったわけですので、実際の工事において、業者はこの影響を受けたと思うのですが、この様な経済状況の時には、入札の見送り等の検討はされないのですか。また、この様な経済状況の場合、入札者が減ってしまうことはないのですか。</p> <p>(新井委員長)</p> <p>奥地保安林整備事業についてですが、土建業者が落札した場合（A022）（A023）、落札率が高いのですが、土建業者以外が落札した場合（A014）（A015）、落札率が低くなっているのはどうしてですか。</p>	<p>(治山課長)</p> <p>契約終了後、業者から施行計画書の提出があり、この施行計画書に沿って工事が行われるわけですが、契約終了後、だいたい1週間程度で工事に着手するのが一般的です。</p> <p>(治山課長)</p> <p>今年の燃料等の高騰により入札者が減少したかどうかについては検証しておりませんが、燃料、鋼材の高騰により不落となった工事はありませんでした。</p> <p>(企画調整室長)</p> <p>鋼材などについては、単品スライド条項というものがあリまして、一定程度の価格上昇があった場合には、契約を見直すという制度も採用しております。</p> <p>(治山課長)</p> <p>今年につきましては、燃料と鋼材が単品スライド条項の対象となっております。</p> <p>(治山課長)</p> <p>同じ奥地保安林整備事業でも、間伐作業と丸太積みを行うような工事については、土建業者以外が落札した工事もありましたが、落札率の差については業者の競争性があったと推測されます。</p>
--	--	--

	<p>(石井委員)</p> <p>治山工事の(A053)についてですが、工事費内訳書のグラフを見ると、この落札者は、工事費内訳書に記載した金額では、3位でしたが落札者となっています。</p> <p>今までのデータでは、工事費内訳書において、一番低い金額の業者が、入札時により低い金額を入札金額として落札しておりましたが、このような逆転現象はよくあるのですか。また、再入札となった場合は、初回で一番低い札を入れた者が、再入札時にも応札金額を一番低くするという傾向はあるのでしょうか。</p> <p>このようなことを分析することは、競争性の判断に役立つと思います。</p> <p>(新井委員長)</p> <p>測量・設計コンサル業務についてですが、落札率の平均は、工事に比べてだいぶ低くなっており、個々の落札率の差が非常に大きくなっているのは何故でしょうか。</p>	<p>(企画調整室長)</p> <p>入札時の顔ぶれを見て、その場で入札金額を下げるということは、競争入札では当然のことと考えますので、工事費内訳書の金額の順位に関係なくどの業者が一番安く入札するかは判らない所であります。再入札についても同様で、誰が応札金額を引き下げるかは分かりません。</p> <p>(企画調整室長)</p> <p>測量・設計コンサル業務については、林野庁の積算要領により適正に積算をしているわけですが、測量・設計コンサル業務については、業者間の競争が近年激しくなってきております。</p> <p>また、コンサル業務につきましては、人件費、技術費がほとんどを占めておりますので、事業者の効率的な人員配置等の努力により、落札率の低下がおきていると推測されます。</p>
--	---	---

	<p>(新井委員長)</p> <p>結果として落札率が低いのであれば、予算が少なくても済むわけですが、積算が妥当なのかという議論にもなると思いますが、その点についてはいかがでしょうか。</p> <p>(石井委員)</p> <p>治山工事(A030)の分析グラフを見ますと、法枠工のように高い積算金額部分については各業者とも、それほど開きのない価格で積算し、土留め工仮設工、法枠工仮設工など低い積算金額部分については低い価格を見積もっていますが、この様に業者全員が同じような金額で見積もりを出す工種については、どのようなことが分析できるのか検討が必要だと思います。</p> <p>(新井委員長)</p> <p>時間もそろそろ来ましたので、このあたりで審議は終わりにしたいと思います。今後もこの委員会において色々な審議をしていくわけですので、林野庁で行われた色々な情報を委員会に提出頂き、審議をしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>	<p>(企画調整室長)</p> <p>積算においてより安い人件費等を反映すべきとの議論もあると思いますが、積算については要領に基づき行うのが基本であり、また、人件費をどんどん安く抑えれば良いというのは、低い賃金を追認していくという問題も一方で生じるのではないかと感じております。</p>
<p>委員会による意見の具申 又は勧告の内容</p>	<p>特になし</p>	